

Next

発行所 一般社団法人茨城県建設業協会
建設未来協議会

〒310-0062 茨城県水戸市大町3-1-22
電話 029(221)5126(代)

ホームページ <http://miraikyo.com/>

Facebook: <https://www.facebook.com/kensetsumiraikyo/>

発行人 櫻井俊一

令和6年度 基本方針

建設未来協議会 会長 櫻井 俊一

初めに、本年1月1日の能登半島地震によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますと共に、多大な被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げます。また、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

本県においても、昨年は台風2号による牛久沼の越水や13号による日立市の水害で大変大きな被害がでました。県内各地域の被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。また、昼夜問わず災害対応にあたった会員企業の皆様に心から敬意を表します。このような自然災害が激甚化・頻発化する中、現場の最前線で緊急対応にあたる地域に密着、精通した、我々地域建設業者の存在はますます必要不可欠であり、「地域の守り手」として安全・安心を支え続けることが我々の使命である事を再認識いたしました。

一方、世界的な物価高の影響を受けた建設資材価格の高騰や、建設業の働き方改革関連法による時間外労働の罰則付き上限規制の適用開始など、今まさに建設業界は大きな転換期に直面しています。喫緊の課題である若年入職者の確保に向け、週休2日制や労働時間の短縮を実現するためには、労働環境の改善や福利厚生の見直し等を積極的に行いこの重要な課題を乗り越えなければなりません。

また、ある就職情報サービスが大学生・大学院生を対象として実施した調査では、「企業のSDGsに関する取り組みを仕事選びに意識しますか？」という問いに51.7%、「企業がSDGsに取り組んでいることを知ると志望度が上がりますか？」という問いに70.2%の人が肯定的な回答をしたそうです。さらに別の調査では、企業が取り組むべきと考えているものとして「働きがい」「ジェンダー平等」「健康と福祉」が挙げられています。我々も若手入職者の確保に向け、このような観点に着目し重視すべき価値観として押さえておく事が重要であるのではないのでしょうか。建設業も「働きがい」のある仕事であることは、皆さんご承知の通りです。その点をあらゆる手法で表現し伝えることができるよう、広報活動を積極的に行っていきたいと思えます。

また、加速するDX（デジタルトランスフォーメーション）への取組みの中、ICT施工やBIM/CIM、そしてAIの活用などによる生産性の向上ならびに業

務の効率化など、魅力ある産業となるための諸課題についても引続き研究・情報収集を行ってまいります。

さて、「建設業に従事する次代を担う経営者が魅力ある建設業の創造と地域の発展に寄与する」という目的のもと、建設業協会の青年部として1993年に設立された建設未来協議会も、本年で32年目を迎えました。これまで諸先輩方が築き上げてくださった事業を継承しながら、新たな視点と切り口で新たな事業を模索し続けることが当会の更なる発展に繋がることになるのではないのでしょうか。今年度は会員121名で3委員会・6地区の事業計画を基に各事業を進めてまいります。

また新たな事業として、協会本部と連携し小中高校生を対象にした建設業出前授業の開催を予定しております。昨年度より、教材の作成に向け協会本部土木委員会ワーキンググループに当会会員も数名参加させていただき会議を重ねてきました。これまで開催してきた建設フェスタや建設業体験学習等の体験型イベントに並行し「いつまでも安心して暮らせるまちづくり～安心安全、快適な暮らしを支える建設業の役割～」というテーマのもと、座学を通して、早い段階で建設業の仕事の内容やインフラ整備の重要性を理解してもらおうと共に、将来「建設業」が職業選択の一つに入るような活動になればと思っております。

会員の皆様には、各事業に対し積極的な参加・協力の程よろしくお願いいたします。またこの会を通し、会員相互の親睦を深めると共に、会員企業が抱える諸問題等々について情報共有し、少しでも有意義な会となることを期待いたします。

最後に、本年度も当会の運営に対しまして、協会本部・各発注機関の皆様・関係各位の皆様には更なるご指導・ご支援の程よろしくお願い申し上げます。



令和6年度 第32回 定時総会を開催

総務委員会 副委員長 田所 大和

本協議会の第32回定時総会が令和6年5月10日(金)、ホテル・ザ・ウエストヒルズ・水戸において会員77名出席(委任状33名)のもと開催された。

冒頭、鈴木会長より「昨年10月の建設フェスタでは4年ぶりのフル開催となり、大勢の来場者に建設業や地域インフラの魅力の一端に触れて頂くことができました」と話があり、新型コロナウイルス感染症流行前と同様に開催できたことを喜んだ。一方、建設業界には「2024年問題や働き方改革、生産性向上、ICT、DXといったキーワードが並んでいる。これらの問題を持続可能な業界になるためのチャンスととらえて参りたい。県建設業協会のパワーとネットワーク、建設未来協議会のアイデアとネットワークが加われば業界の課題解決に貢献できるのではないかな。今後も関係機関・団体と密接な連携を図りながら積極的な活動を展開していく」と意気込みを語った。

続いて(一社)茨城県建設業協会石津会長は「従来からの課題に加えてDXへの対応など新しい課題に対応しながら、地域の安心安全を守っていかねばならない。若者が夢を持って将来を託せる、魅力的な建設業となるよう一丸となって活動して参りたい」と述べた。

その後は鈴木会長が議長を務め議事の進行を行った。令和5年度事業報告、収支決算、令和6年度事業計画案、収支予算案、役員改選などを審議し、原案通り可決承認された。



総会では24年度事業計画などを承認した



石津茨建協会長



鈴木会長



田村県土木部長

役員改選では新会長に櫻井建設工業株式会社の櫻井俊一氏が就任し、「新たな事業として協会本部と連携し、小中学校生を対象とした出前授業を開催する。座学を通して建設業の仕事の内容やインフラ整備の重要性を理解して頂き、将来の職業の選択肢に入る活動になると良い」と意欲を示した。

議事終了後、来賓祝辞では田村茨城県土木部長から「建設未来協議会の皆様の活動は中長期的な担い手確保に向けた取り組みとして極めて重要であると考えている。県としても県民の幅広い層に建設業の魅力や存在意義をご理解頂けるように、公共事業の重要性や災害発生時に活動する姿の発信に取り組んで参る」と祝辞を寄せた。総会終了後は懇親会を開催し、卒業生及び新規入会者の挨拶も行われ、盛況のうちに本会は幕を閉じた。

第9回 砂場クリーン作戦を実施

地域貢献活動委員会 委員長 高野 弘康

“子ども達に安全で衛生的な砂場環境で遊んでもらう事”を目的とし、今回で8回目となる「砂場クリーン作戦」を土浦市にある「学校法人沼田学園 白帆幼稚園」にて、令和5年7月12日に実施致しました。

この企画は、これから未来へ羽ばたいていく次世代の子ども達に、安全で衛生的な砂場環境で遊んでもらう事と共に、自分達が直接関与し、自分達で砂場を綺麗にしたんだという達成感を自らの成長につなげてもらえればという思いから、地域への貢献する活動として砂場清掃奉仕活動を実施しています。

作業内容として

- 1 重機、人力スコップにより砂を場外へ掘り起こす作業。
- 2 電動振るい機、振るい網(人力)による、異物除去等振るい分け作業。
- 3 振るい分けによって目減りした砂を補充する補充作業。
- 4 口に入れても無害な消毒液散布による、除菌・抗菌作業。

を行います。

今回の砂場クリーン作戦で園児達には、振るい網による振るい分け作業を体験してもらいました。重機やダンプトラック等を搬入し、実際の建設現場のような光景に園児達も大興奮で「おじさんたちがんばー！」という黄色い声援も沢山頂



きました。作業を終えてみると、小石、小枝、枯葉、埋もれた玩具等を除去することができました。また砂場の清掃活動を行うと共に、新しい遊び場になる築山の製作、砂場の拡大、園児達と一緒に重機の操作体験を行いました。今回初の試みであるクレーン操作体験、ドローン操作体験、園児達による人文字での記念撮影には子供たちは大変喜び目を輝かせていました。

作業後、幼稚園の先生・園児からは感謝の言葉を頂きとても嬉しくなりました。磯野園長からは「砂場の清掃作業は今回が初めて。ごみの除去や消毒は大変ありがたい。また子ども達は乗り物に興味を持っており、建設機械の試乗など普段できない体験ができることを楽しみにしていた」とおっしゃりました。そのお言葉と共に作業初体験で目を輝かせていた園児達の姿を思うともっとこれからも地域の為に貢献できる委員会として活動できればと強く感じました。そしてその活動が、延いては私たち建設産業の発展に繋がっていくものと確信いたしました。

最後に今回の活動にご協力いただいた「学校法人沼田学園 白帆幼稚園」様に感謝を申し上げるとともに、参加して下さったスタッフの皆様にも厚く御礼申し上げます。今後もこのような活動への変わらぬご協力、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

第28回 建設フェスタ2023を開催

地域貢献活動委員会 副委員長 浅野 麻由美

令和5年10月7日(土)、第28回目となる「建設フェスタ2023」が笠松運動公園にて開催されました。令和2年・3年と2度の開催中止、令和4年は催事会場を縮小し感染対策を講じた上での開催を経て、4年ぶりにコロナ禍以前の規模で行われました。今回は、多くの新企画を計画しながら準備を進めてきました。そして当日は天候にも恵まれ、開始早々から各ブースに行列ができるほどの大盛況となり、約15,000人ものお客様で賑わいました。

会場入口では、迫力満点のバックホウ2台を使ったゲートがお客様をお出迎えし、来場された方々が目を輝かせながら重機と一緒に写真を撮る光景が印象的でした。毎年人気の重機・建設車両の展示・搭乗体験では今回初めて70tクラスのラフタークレーンが登場し、普段見ることのできない機械を見ることができ、貴重な機会となりました。また、新たな企画の「重機ショー」には重機が動く様子を間近で見ようと、四方を囲むように非常に多くのお客様が集まってくれました。NHK「おかあさんといっしょ」でお馴染みの



「ジューキーズこうじちゅう！」の曲に合わせて、バックホウの360°回転や、アームの力強さを披露し、会場からは歓声が沸きました。その後の棒倒しゲームでは山の中央の棒を倒さないようにしながら碎石を掘る様子を、実況アナウンスと共にご覧いただきました。ショーの中では重機を操作する「人」へもスポットを当て、インタビューを通して子ども達や親御さんが“建設の仕事”に興味を持って頂けたと思います。私自身が幼い頃に重機が動く様子を見た記憶が残っているように、建設フェスタに来た子ども達にも楽しい記憶を持ち帰ってもらえていたら嬉しく思います。

その他にも「配管ブロックゲーム」を実施し、私たちの暮らしに欠かせない配管工事をテーマに本物のVUパイプや継手を用いて配管を組み立て、水に見立てたビー玉がきちんと流れるかを試すゲームに子ども達は何度も挑戦し、楽しんでいました。同時に、この配管が何に使われているものなのか興味を持って下さる親御さんもいらっしゃいました。



建設フェスタでは、ミニ消波ブロック製作、親子競演丸太切り、建設作業体験リレーなど、実際に建設工事で使用する材料や道具を使用した大人気の企画が多数開催されました。これらの体験やゲームを通して親子そろって建設業に興味を持っていただきながら建設工事におけるものづくりの楽しさを直に感じていただくことは、大変意義のあることだと考えています。

また、近年建設業界でも急速に活用が進んでいるドローン飛行体験ブースにも、多くの親子が興味を持たれていました。このような新しい技術に触れる機会を設けることで建設業への関心を深め、将来の可能性を広げることができればと思います。

今後も子ども達の笑顔と夢を育む素晴らしいイ



ベントとなりますように工夫と改善を重ね、より良い建設フェスタを創り上げていきたいと思えます。

最後になりますが、建設フェスタという大イベントの開催にご尽力いただいた茨城県土木部をはじめとする発注者各位、参加・協賛団体および協力企業の皆様に心より御礼申し上げます。

国交省建設技術展示会でDXを体験

社会コミュニケーション委員会 委員長 田口 富之

令和6年2月16日に千葉県松戸市にある、国土交通省関東地方整備局建設技術展示館の見学会を実施いたしました。見学内容は災害対策（災害対策車両展示、被災橋梁展示等）に関するもので、DX技術（レーザースキャナー、BIM/CIM、トータルステーション）を楽しく学べるものとなっております。建設技術展示館には建設業のみならず、様々な業種の方が見学にいらしていたこともあり、職員の方の説明は非常にわかりやすく、そして面白く、あっという間に見学の時間が過ぎていきました。

今年度より始まった時間外労働の罰則上限規制の適用、魅力ある建設業であるための完全週休2日制の普及等に対応していくために、更なる生産性向上が各社に求められている中でのDX、ICT技術の活用はなくてはならないツールの一つになっていることは間違いありません。今回の見学会では現在取り込まれている最新技術だけではなく、今後ますます普及していくであろう技術も知ることができ、会員各企業のDX、ICT技術の更なる普及の一助となりました。

円滑な業務へ行政機関と意見交換会

常総国道事務所・北首都国道事務所

社会コミュニケーション委員長 鈴木 亮

令和5年12月4日(月)、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所において、意見交換会を開催しました。常総国道事務所 浜谷恒平事務所長、北首都国道事務所 後閑浩幸事務所長をはじめとする幹部職員の方々に御出席をいただき、現場管理の実務や入札・契約制度の取組みなどについて、意見を交わしました。

議事では、関東地方整備局から【主要事業の概要説明、入札公告等(補正予算)の情報について】説明があり、建設未来協議会から【広報紙(NEXT)や建設フェスタ2023、砂場クリーン

作戦、各地区会における見学会や体験会など様々な活動について】報告しました。

続く意見交換会では、工事の円滑な施工、働き方改革の推進と共に、令和5年7月にバージョンアップされた【土木工事電子書類スリム化ガイド】の現場の感想や【小規模工事ICT施工活用】に関する地域の実情など、踏み込んだ内容の意見交換を活発にさせていただきました。

発注者及び建設未来協議会からも忌憚のない意見が出て、とても有意義な意見交換会となりました。

下館河川事務所

監事 青木 敏紘

令和5年11月13日(月)、下館河川事務所との意見交換会を開催しました。前年度は、新型コロナウイルスの影響によりWEBでの開催となってしまいましたが、今年度は対面式での意見交換会を実施することができ、海津義和事務所長をはじめ多くの事務所関係者の方々にご参加いただきました。

下館河川事務所の海津所長と本会の鈴木会長のあいさつ後、議事では、下館河川事務所側から「下館河川事務所 事業概要」、関東地方整備局が

取組む「働き方改革・担い手確保の取組」、「土木工事電子書類スリム化ガイドについて」、「インフラ分野のDX推進について」、「総合評価落札方式における賃上げを実施する企業に対する加点措置」について説明していただきました。未来協議会側からは、地域貢献活動などの活動を紹介しました。

今回は対面式での実施ということもあり、質問や要望事項、フリーディスカッション等も同じ空気感を持ってとても良い意見交換ができました。

高萩工事事務所・常陸太田工事事務所

高萩・太田地区 幹事 石井 貴之

令和5年12月11日(月)茨城県建設業協会高萩支部会館において、茨城県高萩工事事務所・常陸太田工事事務所合同意見交換会を開催しました。

高萩工事事務所から長山公信所長をはじめ、多くの方に出席していただき、常陸太田工事事務所からもご出席いただきました。

議事では、建設未来協議会の活動内容について報告し、次に幸加木次長が県の最近の取り組みに

ついて話し、舟生光志次長兼道路整備第一課長が台風13号関連について情報提供をいただきました。

意見交換では『災害対応・維持管理について』『工事内訳・変更数量』『遠隔臨場・ASP運用について』などの質疑応答を行い、濃い内容での意見交換会を行うことができました。

茨城県土木部

総務委員会 副委員長 石津 弘敏

令和5年10月25日(水)水戸市民会館において、茨城県土木部と建設未来協議会の意見交換会が開催されました。茨城県土木部からは検査指導課より伊藤豪人技佐兼課長補佐、一澤孝夫検査監、中島孝次課長補佐をはじめ7名の方にご出席頂きました。

冒頭、双方の直近活動内容が報告され、建設未来協議会からは「建設フォトコンテスト」や「建設フェスタ」の開催について報告。その後、質疑応答やフリーディスカッションを行ないました。

主な議題は、近年の物価高対応や働き方改革についてで、物価高対応については、資材価格の急騰に対処するため単品スライド条項の導入が議論され、特定資材の価格変動に応じた契約金額の調整を行うことで、双方のリスクを軽減する方向が確認されました。

働き方改革については、週休二日制の促進について議論され、発注者、受注者双方の立場からの意見、要望を確認し合い、普及には双方の協力が



必要との意見で一致しました。

その他、入札や契約からの施工、検査関連などの様々な議題が話し合われ、新型コロナウイルス感染症の「5類」へ移行後の対面形式での開催となったことも相まって、非常に白熱した有意義な意見交換の場となりました。

今回の意見交換会を通じて、受発注者双方から具体的な課題と解決策が共有され、今後の取り組みに向けた貴重な知見が得られました。

いばらき「建設フォトコンテスト」2023を開催

副会長(社会コミュニケーション委員会担当) 小倉 健太郎

建設業のPR・イメージアップ活動の一環として始まった“いばらき「建設フォトコンテスト」”ですが、近年では茨城県建設業協会のカレンダーやイベント・商業施設での展示会などでも使用されております。

昨年度は、全国各地より633点もの応募があり、48点の入賞作品が選ばれました。携帯電話での撮影の普及、そして若い世代からの応募を期待し、気軽にInstagramから応募が出来るように新たにインスタ賞を設けました。

また、フォトコンテスト受賞作品の展示会場イーアスつくば様からのオファーもあり、建機メーカー日立建機様のご協力のもと、建機の試乗体験・写真撮影会を実施する運びとなり子供308人、大人450人がご参加くださいました。

このような活動を通じて、地域建設業を一般の方々に少しでも身近に感じていただき、建設業への理解を深めていただければ幸いです。

今後とも皆様のご協力、ご支援を宜しくお願い申し上げます。



中学生たちがものづくりの楽しさ学ぶ

境町立第一中学校に倉庫建築

大宮・太子地区 前幹事 生田目 憲明

令和5年度のCCI茨城（茨城県魅力ある建設事業推進連絡会議）の事業において校倉造り（倉庫）、ベンチ製作、ドローン体験、高所作業車による高圧洗浄体験を、那珂市立第一中学校の1年生116人を対象に11月9日(木)12月14日(木)にて開催しました。

1日目は、基礎の鉄筋をハッカーを使い結束、スコップを使って既存ベンチの撤去、ドローンの操縦、そして高所作業車に乗り屋根の高圧洗浄作業を体験していただきました。

2日目は、校倉造りの構造や仕組みを学んでもらうために、重い材料を担ぎながら建ててもらいました。ベンチ製作では、建柱用スコップを使用し、直径50cm深さ50cmの穴を1セットにつき3か所掘り、製作したベンチをセットし、防腐剤を塗布しました。またドローンの操縦、高所作業車の作業を1日目と同様に行いました。

工事完成後、令和6年1月25日に引き渡し式を開催しました。来賓に先崎那珂市市長、主催者側として梅沢技術管理統括監兼検査指導課長、高野常陸大宮支部長栗山未来協議会副会長、生徒代表として桑沢さんが出席し、皆様から挨拶をいただきました。

参加した生徒からは、「ベンチの防腐剤を塗る



のが楽しかった、体験学習によって将来の職業の選択肢の一つになりましたと感想をいただきました。先生からも高所作業の体験が面白かった」と言っていただけで、開催した意義を感じる事ができました。

この体験を通して、生徒たちが少しでも建設業へ興味を持ってくれたことと思います。また、この経験と熱量をもって若い世代へ我々業界のことを伝えていき、興味をもってもらえるように努力を続けていこうと思います。

最後に、この事業に参加協力して頂きました各関係者様に心より感謝申し上げます。



小学生とベンチ付きテーブルを製作

鹿行地区 前幹事 藤井 雅成

令和5年12月12日(火)に鹿行地区のベンチ付きテーブル製作体験学習を行方市立玉造小学校にて開催しました。

この体験学習は、みんなで一緒にベンチ付きテーブルを製作することで、協力してものをつくる楽しさや達成感を体験してもらい、建設業が将来の選択肢になるようにと毎年実施しております。

当日は、はじめに生徒たちへ組立図面を見せ、電動ドリルの使い方や作業時の注意事項を説明。その後6年生76人を4つのグループに分け、当地区会員指導のもと、ベンチ付きテーブルを4基製作しました。

子供たちは笑顔を見せながらも真剣な眼差しで作業を行っており、ベンチ製作を通してものづくりの魅力を体感してもらえたのではないかと思います。



なお、完成したテーブルは1年生教室前の芝生エリアに設置され、生徒の皆さんに活用されています。

重機やドローン操縦・測量体験を提供

高萩・太田地区 幹事 石井 貴之

令和5年11月15日(水)日立市立平沢中学校にて全学年(26名)を対象とした建設体験学習を行いました。

体験種目は建設機械操縦体験(3tローラ、バックホウ)、測量体験、ドローン操縦、ベンチ付きテーブルや木製はがき、鉛筆製作を行いました。

4つのグループに分かれ、交代しながらすべての体験を行いました。重機体験では実際に生徒たちが乗り込みアドバイスを受けながら操作や走行を試しました。測量体験ではハンドボールを使い、投げたボールの落下地点までの距離を測量機器を使って正確に測定しました。鉛筆製作では木の枝に充電式ドライバーで穴を開けた後、そこに芯を詰めてオリジナルの鉛筆を製作しました。ドローン操縦では、「名前は聞いたことはあるが実物をみたのは初めて」と言う生徒さんもたくさんおり、「操縦までさせていただけると大変貴重な体験

です」と興味津々でした。

体験学習の終わりに、渡邊校長先生や生徒さんにも「テニスコートが綺麗になったし、将来につながる素晴らしい体験をさせていただいた」と、感謝の言葉をいただきました。この体験学習を通じてみなさんが、少しでも建設業に興味を持って、これからの建設社会を担って頂けたらなと強く思いました。



第28回全国建設青年会議全国大会を開催

28回目となる全国建設青年会議全国大会が、令和5年12月1日に、関東ブロック主幹のもと「未来への一步～建設産業が望む姿～」をテーマに東京プリンスホテル（東京都港区）で盛大に開催され、全国9ブロックから若手経営者ら約500名が参加しました。

まず、大会会長の舛山大介氏（関東建設青年会議）があいさつし、続いて国土交通省の吉岡幹夫技監が特別講演、続く第2部では、須田久美子氏（（一社）土木技術者女性の会運営委員・建設産業女性定着支援ネットワーク幹事長）の「ドボ

ジョの働き方と建設業界の女性定着」と武村雅之氏（名古屋大学減災連携研究センター特任教授）による「関東大震災がつくった東京 首都直下地震へどう備えるか」と題した、基調講演が行われました。

第3部ではトークセッションが開かれ、出水享氏（長崎大学博士）がコーディネーターを務め、パネリストとして基調講演を行った2人に大石久和氏（日本建設技術協会会長）と舛山会長を加えた4人で意見を交わしました。

関東建設青年会議を開催

令和5年9月29日、THE MARK GRAND HOTELにて、令和5年度通常総会ならびに国土交通省関東地方整備局との意見交換会を開催しました。当会議は、関東地方各県建設業協会に所属する若手経営者により組織されています。

総会では、会員相互の情報発信・共有を掲げた

事業計画(案)や昨年度の事業報告について報告・承認されました。また関東ブロック主幹で開催する全国建設青年会議の内容を確認しました。

続けて、同会場で関東地方整備局幹部と当青年会議で、建設業界を取り巻く課題や新技術・施策などに関して意見を交わしました。

日本赤十字社へチャリティー金 寄付

本年も社会貢献活動の一環として、当協議会のチャリティーゴルフコンペ収益金を令和6年3月5日に能登半島災害義援金として日本赤十字社に寄託しました。災害義援金としての対応は2019年（台風19号）以来2回目となります。

鈴木会長は「地域のインフラ、安全安心を守る建設業として、被災地の復旧復興に強い思いがある。被災地の一日も早い復興に向けて活用いただきたい」とあいさつし、服部事務局長から「被災者支援にしっかりと役立てていきたい」とお礼の言葉を頂きました。



委員会紹介

総務委員会

担当副会長 長山朋之 (長山工業(株))

委員長 河野真 (株)河野工務店

副委員長 平山悠 (株)水府工務店・吉原政文 (吉原建設工業(株))・石津弘敏 (常総開発工業(株))・田所大和 (株)ワイエスケイ・仁平大介 (株)仁平工務店

委員 足立憲史 (足立建設(株))・桐原裕一 (株)桐原工務店・長谷川優子 (平和建設(株))・若松亜紀子 (菅原建設(株))・菊池康平 (菊丸建設(株))・須田要介 (日立土木(株))・大内榮樹 (株)大栄建設・金澤陽治 (有)金沢建設・益子正太 (有)益子・石津松吾 (石津産業(株))・鏑木大輔 (鏑木建設(株))・下館雄樹 (株)波崎建設・飯塚亮平 (飯塚建設(株))・松浦征典 (松浦建設(株))・松尾彪 (松尾建設(株))・島崎崇 (北条工業(株))・田林剛 (勝工業(株))・新井雅貴 (株)アロウズ・石田達郎 (石田道路(株))・白田諭 (白田工建(株))・柴信一 (旭建設工業(株))・中山英士 (の)だや建設(株)・宮本恭成 (石塚産業(株))・松本浩治 (株)新栄開発・山下祐史 (山下工業(株))

社会コミュニケーション委員会

担当副会長 小倉健太郎 (株)小倉工務店

委員長 田口富之 (株)田口工務店・鈴木亮 (北都建設工業(株))

副委員長 荒川繁美 (水戸土建工業(株))・井坂陽介 (株)井坂組・生田目憲明 (株)進栄・福智勇人 (福智建設工業(株))・赤塚剛 (株)赤塚土木興業・齋藤誠 (株)齊藤建設・中川喜夫 (中川ヒューム管工業(株))・中山英俊 (株)染谷工務店

委員 足立憲史 (足立建設(株))・池田大輔 (コスモ総合建設(株))・梅沢匠 (株)福田工務店・大貫可奈以 (株)大貫工務店・小池良一 (有)小池工務店・横田修一 (株)横田建設・中井将史 (株)中井工務店・中野陽平 (株)根本組・石井貴之 (有)石井建設・大須賀浩平 (株)大須賀工務店・大森裕一郎 (大森建設(株))・藤井雅成 (株)丸二工務店・飯島新史 (飯島建設(株))・澤田進一 (澤田建設(株))・田崎翼 (株)田崎技術・佐々木祐也 (常磐建設(株))・寺田健一郎 (株)羽原工務店・根本博行 (株)コウキ建設・細谷貴弘 (細谷建設工業(株))・松浦征典 (松浦建設(株))・松尾彪 (松尾建設(株))・浅野麻由美 (浅野物産(株))・磯邊集 (株)アレスコ・成島隆平 (成島建設(株))・新井雅貴 (株)アロウズ・石嶋尚 (株)石嶋建設・鮎川和男 (飯田建設興業(有))・堀江平 (堀江産業(株))・串田一仁 (株)クシタ建設・野口貴生 (野口機設工業(株))・新井邦幸 (株)新井建設工業・印出正人 (株)丸健工業・小川敦史 (小川建設工業(株))・染谷真一 (株)染谷建設工業・高橋拓也 (株)高橋芝園土木・中村亮太 (中和建設(株))

顧問 栗山秀樹 (栗山工業(株))

地域貢献活動委員会

担当副会長 内藤裕一郎 (株)内藤工務店

委員長 高野弘康 (株)高野工務店

副委員長 秋山正人 (株)秋山工務店・大貫可奈以 (株)大貫工務店・若松亜紀子 (菅原建設(株))・瀬谷政行 (瀬谷建設(株))・川崎和洋 (株)川崎建設・菅谷一成 (有)菅谷工務店・浅野麻由美 (浅野物産(株))・青木敏紘 (株)青木建設

委員 梅沢匠 (株)福田工務店・大内わかこ (株)大内工務店・桐原裕一 (株)桐原工務店・栗原真由子 (株)葵建設工業・仙波秀教 (仙波建設(株))・豊島太一郎 (株)豊島工務店・長谷川優子 (平和建設(株))・菊池康平 (菊丸建設(株))・益子朋 (益三建設(株))・石井貴之 (有)石井建設・鈴木欽一 (株)鈴木組・平山悠 (株)水府工務店・浅川宗典 (株)浅川建設・井上将人 (株)井上工務店・大須賀浩平 (株)大須賀工務店・清水亮 (株)田本工務店・鶴田大海 (株)鶴田組・中島真弓 (株)中島工務店・橋本将一 (橋本建設(株))・八木満津雄 (株)八木組・石井愛理 (有)石井工務店・伊東優考 (株)伊東建設・齊藤卓也 (株)齊藤建設工業・新堀進也 (株)新堀産業・根崎亮 (株)根崎工務店・羽生貴之 (株)羽生工務店・藤枝賢一 (藤枝建設(株))・堀江光 (株)光建・犬塚正一 (株)和城産業・大川雄生 (株)サンワ興業・城内浩和 (株)大平工業・富山秀人 (株)富山園建設・保立明宏 (株)宏洋・松崎祐二 (松崎建設(株))・成島隆平 (成島建設(株))・櫻井郭実 (有)櫻文工業・福智勇人 (福智建設工業(株))・石田達郎 (石田道路(株))・仲川将大 (株)仲川建設・白田諭 (白田工建(株))・大坂寛暁 (大坂建鋼(株))・菊池健郎 (株)菊池土建・串田一仁 (株)クシタ建設・鈴木匡明 (鈴木鉄工建設(株))・中山英士 (の)だや建設(株)・端孝平 (株)端工務店・宮本恭成 (石塚産業(株))・飯田雄介 (株)俊光建設・並木唯久 (有)並木建設工業・山下祐史 (山下工業(株))

顧問 根本昌義 (株)根本工務店

※委員会兼務のため、一部名前が重複しています。

令和6・7年度 役員名簿

No	新任	地区	役職	氏名	商号
1	新	県南	会長	櫻井 俊一	櫻井建設工業(株)
2	新	大宮・大子	副会長(総務担当)	長山 朋之	長山工業(株)
3		水戸	副会長(地域貢献活動担当)	内藤 裕一郎	(株)内藤工務店
4	新	県西	副会長(社会コミュニケーション担当)	小倉 健太郎	(株)小倉工務店
5	新	大宮・大子	総務委員長	河野 真	(株)河野工務店
6	新	大宮・大子	地域貢献活動委員長	高野 弘康	(株)高野工務店
7		水戸	社会コミュニケーション委員長 (社会連携担当)	田口 富之	(株)田口工務店
8	新	県南	社会コミュニケーション委員長 (担い手育成・広報・ソーシャルメディア担当)	鈴木 亮	北都建設工業(株)
9	新	水戸	地区幹事	梅沢 匠	(株)福田工務店
10	新	高萩・太田	地区幹事	石井 貴之	(有)石井建設
11	新	大宮・大子	地区幹事	大内 栄樹	(株)大栄建設
12	新	鹿行	地区幹事	鍋木 大輔	鍋木建設(株)
13	新	県南	地区幹事	福智 勇人	福智建設工業(株)
14	新	県西	地区幹事	菊池 健郎	(株)菊池土建
15	新	水戸	監事	根本 昌義	(株)根本工務店
16		水戸	監事	若松 亜紀子	菅原建設(株)
17	新	県西	監事	青木 敏紘	(株)青木建設
18	新	高萩・太田	顧問	鈴木 達二	鈴縫工業(株)

●令和5年度 新規入会者

No	地区	氏名	商号
1	水戸	大内 わかこ	(株)大内工務店
2	水戸	栗原 真由子	(株)葵建設工業
3	水戸	豊島 太一郎	(株)豊島工務店
4	大宮・大子	中島 真弓	(株)中島工務店
5	県西(境)	飯田 雄介	(株)俊光建設
6	県南(竜ヶ崎)	松浦 征典	松浦建設(株)
7	県南(竜ヶ崎)	根本 博行	(株)コウキ建設

●卒業された皆さん

No	地区	氏名	商号
1	水戸	雨貝 綱太	(株)水戸グリーンサービス
2	水戸	高橋 順子	高橋建設工業(株)
3	水戸	宮本 裕司	芳野工業(株)
4	大宮・大子	根本 貴史	ネモト建設工業(株)
5	大宮・大子	齋藤 靖弘	(有)サイトウ緑地開発
6	鹿行(鉾田)	飯塚 揚	(株)飯塚工務店
7	鹿行(潮来)	安藤 祐章	(株)鹿島企業
8	県西(常総)	山本 明宏	(株)下妻建設
9	県西(境)	加藤 裕司	加藤建設工業(株)
10	県西(境)	小澤 淳	小沢道路(株)



編集後記

昨今、問題になっているのが、建設業界の若手人材不足です。国が行った統計によると、業界で働いている29歳以下の割合は全体の1割程度にとどまっているそうです。新型コロナウイルスの影響で、建設業に興味を持ってもらうために企画していたイベントなどが中止となり、建設業の魅力を感じられるチャンスが減ってしまっていました。ですが、昨年度より建設未来協議会の一大イベントである建設フェスタも3年ぶりに開催され、建設業の未来を担う若者、子供たちに建設業の魅力を知ってもらえる大きな機会となりました。今年も無事に開催できることを願いながら、そこへ自分が携われるということにとってもワクワクしています。

そういった中で、まずは自分自身が胸を張って建設業は素晴らしいと言えるよう、試行錯誤しながら、建設業の未来を担う若者、子供たちへ発信していければと思います。(T.M)